

學指指導案

科目名	社会福祉基礎	指導クラス	3年C組 福祉科（5名）	
単元名	第3編生活を支える社会福祉・社会保障制度 第4章高齢者福祉と介護保険制度			
本時の主題	第11節 高齢者福祉の将来 ～地域包括ケアシステムの実現に向けて～（13／13時間）			
指導観	厚生労働省によると、日本は諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行している。65歳以上の人口は、現在3,500万人を超えており、2042年には約3,900万人でピークを迎えるが、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されている。このような状況の中、団塊の世代が75歳以上となる2025年（令和7年）以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれている。このため、2025年（令和7年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築が求められている。 本時では、高齢者が要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい生活ができるよう、医療、介護、予防・保健等の視点を参考にしながら自身ができる支援を考察し、発表させたい。			
本時の目標	・高齢者が自分らしい生活をするための支援を考察し、分かりやすく表現している。【思考・表現・判断】—⑦			
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価について	教師の指導
導入 5分	本時の目標確認	以前学んだ、地域包括ケアシステムの内容を確認する。		前回の内容を振り返り、本時の目標を確認させる。
展開 35分	地域包括ケアシステムの実現に向けて	1 事例から一人暮らしの高齢者に必要な支援を各立場から記入する。 ・高齢者像に対して必要な支援を医療、介護、介護予防、住まい、自立した日常生活の視点から必要な支援を記入する。 〈予想される生徒の反応〉 ・介護サービスを利用する。 ・病院に通院してもらう。 ・近所の人に相談する。 2 高齢者が自分らしい生活をするための対策方法について考察し、発表する。 〈予想される生徒の反応〉 ・普段から、近所のお年寄りを気にして声をかける。 ・お年寄りにあったら挨拶をする。 ・社会福祉協議会と連携して、福祉情報提供のチラシを作成する。	○評価規準【思考・表現・判断】—⑦ 高齢者が自分らしい生活をするための支援を考察し、分かりやすく表現している。 〈評価方法〉 ・ワークシート・行動観察 ・ペーパーテスト Aの例 高齢者が自分らしい生活を送れるよう、地域包括システムを参考にし、自身が継続できる行動を具体的に考え、わかりやすく表現することができている。 Bの例 高齢者が自分らしい生活を送れるよう、地域包括システムを参考にし、考え、表現している。	一人暮らしの高齢者の諸課題を確認しながら記入させる。 以前学んだ、外部障害師（医師、生活相談員、介護施設職員）から学んだ地域包括ケアシステムの内容を確認し、記入させる。 〈Cへの手立て〉高齢者の立場になった時に自分らしい生活をするために何が必要かを考えるよう指示する。
まとめ 10分	本時のまとめ	3 本時、学んだ事を仲間同士で振り返る。 ・自己評価を記入する。		・本時学んだ事を振り返らせる。



第3編生活を支える社会福祉・社会保障制度

第4章 高齢者福祉と介護保険制度 11 高齢者福祉の将来～地域包括アシステムの実現に向けて～

目標 高齢者が自分らしい生活をするために必要な支援を考え、発表しよう。

復習



高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制のことを（地域包括ケアシステム）と言います。

支援

医療、介護、介護予防、住まい、自立した日常生活

視点

自助、互助、共助、公助

○それぞれの立場の意見をまとめよう。

病院	社会福祉協議会
市役所	介護施設

○高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるために自分たちでできる継続的な支援を考えよう。
【思考・表現・判断⑦】

自分の意見

メモ

まとめ

高齢者が自分らしい生活をするために必要な支援は、「自分ごととして考える」ことが大切

【自己評価】 A よかった B まあまあよかった C あまりよくなかった D よくなかった

- 1 地域包括ケアシステムについて理解することができた
- 2 高齢者が自分らしい生活をするために必要な支援を考えることができた
- 3 授業の振り返り